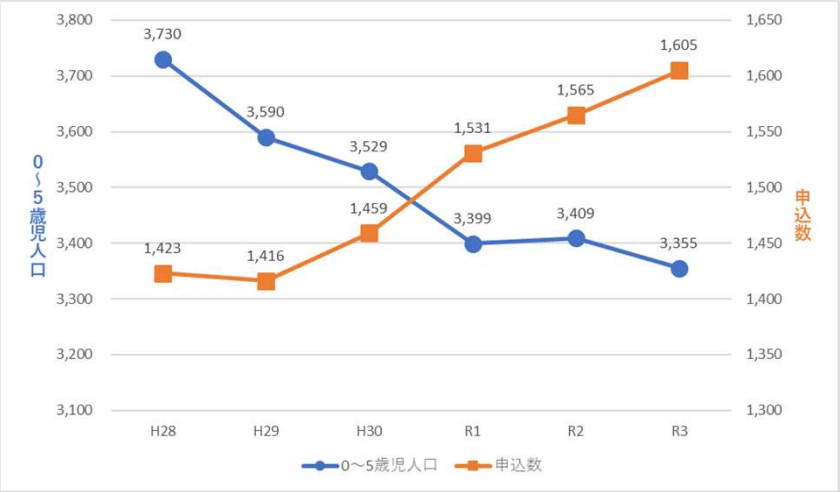
泉大津市の待機児童対策について

子ども・子育て会議資料2　別紙2

本市における令和５年４月当初の待機児童数は０となりますが、特定園希望等の事情により、待機児童としてカウントされない子ども（隠れ待機児童）が一定数いる状況です。保育の受け皿を適切に整備していく方針のもと、現状及び今後の対策を以下に示します。

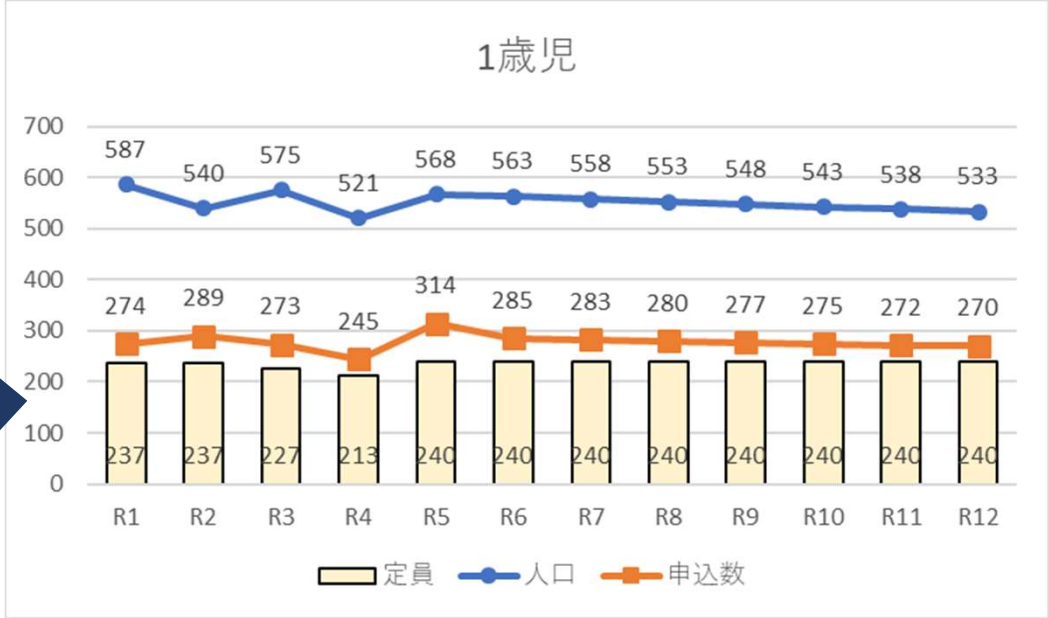
◆本市における0～5歳人口と保育所等申込者数推移

本市においても、全国的な傾向と同様に、0～5歳人口は減少傾向だが保育所等の申込者数は増加傾向にある。



1、2歳児で申込数が定員を上回る状況

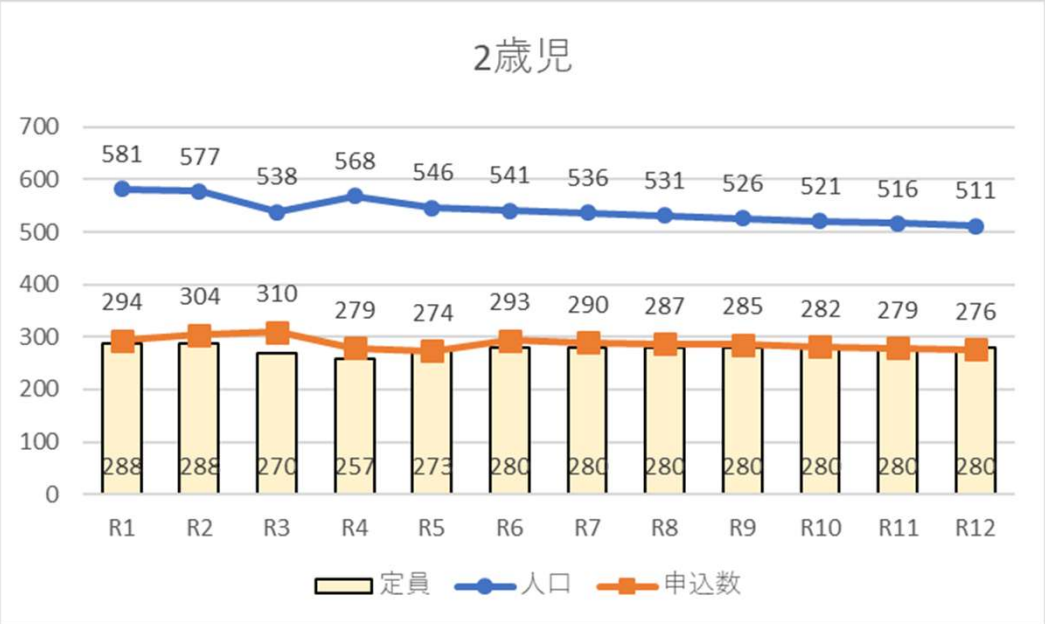
◆本市における0～5歳人口と保育所等の申込数及び定員（R6年度以降は推計値）



R5年度の申込み状況を見ると、1・2歳児において申込数が定員を上回っている状況で、R6年度以降を推計すると、**1歳児で30～40人**、**2歳児でおよそ15人**の受け皿不足となる見込み。

↓

【方針】申込数をカバーできる受け皿整備の実施



【受け皿整備の方策】

小規模保育事業所を２施設整備（1施設あたりの定員：0・1歳＝9人、2歳＝10人）

●1歳児40人
- 小規模保育事業所整備（18人）
- 既存園での受入れ促進（22人）

●2歳児15人
- 小規模保育事業所整備（20人）